

持つた」、「校内の研究組織による」、「事前研究会（2時間以内）—研究授業観察（1時間）」、「事後研究会（2時間内外）の三段階をふんだ」、いわゆる「2—1—2方式の授業研究」を実施しており、その実施上の問題点として、「時間がとれないこと」、「研究授業の指導案の作成が難しいこと」、「授業のねらいがどれだけ達成されたかの判定が難しいこと」の三点が浮き彫りにされた。本年度は、「時間がとれない」という現実をそのまま認めて、「2—1—2方式の授業研究」により、実施上の他の問題点を解決し、この授業研究のより効果的な方法を追求しようとした。

(2) 本年度の研究概要

「2—1—2方式の授業研究」では、1時間の授業の中で、「本時の目標の達成」のほかに「研究主題の解決」という課題を持ち、上述の問題点は、この後者の課題に付随するものであることをまず解明し、これらを、「与えられた研究主題に対する解決策を、本時の内容に適した形に具体化して学習指導案の中に明示し、それらが、授業の中でいかに効果的であったかを観察すること」によって解決をはかり、新しい形の学習指導案兼授業観察記録用紙を案出した。

3 福島県標準学力診断検査問題の研究

1) 研究の視点

この研究は、教育課程の改訂に伴い、当教育センターの標準学力診断検査問題を、全面的に改訂・作成するための研究で、継続研究事業である。

そのため、新教育課程に沿った検査問題とすること、及び県内各校で、自校の児童の学力の実態を診断・把握し、教育課程の改善や、学習指導の改善に役立て得る検査問題とすることを視点として研究を進めた。

2) 研究内容と方法

① 福島県標準学力診断検査問題の研究

所員と小学校教員からなる研究委員会を構成し、社会科・理科については4・5・6年用の問題及び手引きを作成し、国語科・算数科については、1・2・3年用の問題作成の基本構想を検討した。

② 学力分析報告書の作成

昭和53年度末に県内小学校（層化無作為2段抽出法により抽出した30校）において実施した、標準化のための検査の結果を分析し、問題ごと、領域ごとの正答率や誤答分析とその結果に基づく対策の視点をまとめた。

③ 福島県標準学力診断検査の実施

4・5・6年用社会科・理科の検査問題を標準化するために、層化無作為2段抽出法により小学校16校を抽出し、検査を実施した。

4 教育相談の基礎的研究

1) 研究の視点

いろいろな症状で来談する件数が増加している現況から、教育相談についての基本的な考え方を明らかにし、事例を通して、問題点の解明を図り、その底に流れている教育相談のあるべき姿を研究した。

(2) 研究の内容

事例を通じた教育相談のすすめ方

(3) 研究の概要

- ① 教育相談とは何か
- ② 学校における教育相談
- ③ 子供を理解する基本的態度
- ④ 問題をもつ子供の発見と診断
- ⑤ 問題をもつ子供の指導
- ⑥ 面接のし方
- ⑦ 事例
 - 多動性
 - 場面かん默
 - 起立性調節障害
 - 車（バス）酔い

第3節 教職員研修

昭和54年度は、県教育委員会が教職員研修の体系化と効果的な推進を図るために策定した「教職員現職教育計画」実施の初年度に当たり、教育センターは、県教育委員会が行う基本・専門・特別研修のうち、「専門研修」を担当することになった。また、昭和55年度から小・中・高等学校の順に新教育課程が実施される。このような状況を踏まえ、教育センターでは、教育庁関係各課、校長会等、その他関係機関との連携の上に立って、教職員の研修事業を整備・計画し、実施に移した。その概要は、次の通りである。

1 新設講座 ()内の数字は、人員を示す。

小学校 道徳講座(40)、特別活動講座(60)

中学校 道徳講座(30)、中・高教育相談講座(20)

高等学校 理科B講座(20)、理科実技講座(20)、書道講座(15)、生徒指導講座(20)、中・高教育相談講座(10)

2 拡充講座

学校経営B講座(6人増)、教育研究法講座(3人増)の対象を、従来の小・中学校から高等学校にまで拡充した。

3 研修内容の充実

(1) 各講座に、新学習指導要領の趣旨・内容についての研究を取り入れた。

(2) 研修の形態に、研究協議・実技・実習・観察・実験・調査・演習等を取り入れ、研修内容の充実を図るとともに、研修の効果が高まるようにした。

(3) 小学校の教科に関する講座には、小学校の学級担任制による全領域・全教科指導の現状に基づき、教育工学の手法、特別活動または教育相談に関する内容を組み込み、多面的な指導が行われるように配慮した。

(4) 中学校講座では、演習・実技・実習・実地調査等によって、研修内容が更に深まるとともに、研修の効果が指導の実際に結びつくように努めた。

(5) 高等学校の教科の講座には、生徒指導の基本に関する内容を組み込み、教科指導と生徒指導の融合を図れるようにした。

4 研修者の学校における組織上の分担、学年担任、教科担